

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 3 月 27 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/27 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.0 m ³ /h	24.1	107.3 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 4.8 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 6.0 m ³ /h	49.3	12.89 kPa g	A系:0.30 vol% B系:0.29 vol%
		給水系：約 2.7 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 4.9 m ³ /h	54.4	0.30 kPa g	A系:0.20 vol% B系:0.18 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機】・3/26 9:40~12:30 工業用内視鏡による格納容器内部の水位確認および水温調査を実施。調査の結果、水位は格納容器底部から約 60cm 程度、測定した水温は、約 48.5℃から約 50.0℃の範囲であることを確認。

・3/27 12:10 原子炉格納容器内部の調査が終了したことから、原子炉格納容器への窒素封入量を 0m³/h から約 5m³/h に変更。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/27 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.6
3号機	循環冷却システム	運転中	13.4
4号機	循環冷却システム	停止中	24

【2号機】・1/19 11:50~ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【4号機】・3/27 5:41 使用済燃料プール一次冷却系のフレキシブルホース交換および二次冷却系のポンプ吸込ストレーナ交換等を実施するため、プールの冷却を停止(停止時プール水温度:約 24℃)。なお、停止期間は 3/28 までを予定。停止期間におけるプール水温度の上昇率は、約 0.5℃/h と評価していることから、プール水温度の管理に問題はない。

・3/27 14:00~16:40 原子炉ウェルへヒドラジンの注入を実施(以降、適宜注入を実施)。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/20 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/26 10:10 ~ 16:34 移送実施
6号機	6号機 タービン建屋	→	仮設タンク	3/27 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/27 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/3/26 8:30 頃、福島第一原子力発電所の淡水化装置(逆浸透膜式)の濃縮水貯槽タンクエリアにおいて、淡水化装置から濃縮水を濃縮水貯槽に送る配管(耐圧ホース)より水が漏れいしていることを、協力企業作業員が発見。そのため、水の漏れいを停止するため、8:50 頃、淡水化装置(逆浸透膜式)の移送ポンプを停止したことから、水の漏れいは停止し、その後、漏れいが確認された配管(耐圧ホース)前後弁の閉操作を実施。その後、現場を詳細に確認したところ、漏れた水の一部が、付近の一般排水用の排水溝に流れ込んでいることが確認されたため、漏れた水、排水溝内の水および排水溝出口付近の海水について、サンプリングを実施。その結果、福島第一原子力発電所1～4号機側放水口から南側に約 300m離れた一般排水用の排水溝出口から、放射性物質を含む水が海に流出したものと判断。なお、現在、淡水化装置(逆浸透膜式および蒸発濃縮装置)は運転を停止しておりますが、淡水化处理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はありません。その後、17:00 頃、セシウム吸着装置を停止。17:29 頃、第二セシウム吸着装置(サリー)を停止。総漏れい量については、ポンプの運転時間等から約 120 m³と推定され、その内、海へ流出した量は最大で約 80 リットルと推定。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/3/27 9:30 頃 4号機原子炉建屋付近にて、協力企業作業員が4号機カバーリング工事に向けた地盤整備作業として、重機による地中埋設配管(4号機変圧器防災配管)の撤去作業を実施していたところ、当該配管より漏水を確認。その後、現場確認の結果、当該配管はすでに隔離操作済みであり、漏れた水はろ過水で、配管内の残留水であることが判明。

以上